

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和5年度 第1回児童発達支援センター運営協議会
開 催 日 時	令和5年7月28日(金) 午後1時30分 開会 午後3時00分 閉会
開 催 場 所	健康福祉センター 3階 301、302会議室
議 長 氏 名	越智恵子
出席委員(者)氏名	越智恵子、平岡知子、野口節子、新井豊吉、池田拓、並木範一、 神山菊枝、桂川泰典、関剛規、清水繁、宮澤聖二
欠席委員(者)氏名	茂木陽、今泉大二郎、吉野隆昭、山川さおり
説明者の職氏名	こども支援課主査 雨間元良 こども支援課主査 松本珠美 こども支援課兼学校教育課指導主事 大館信浩
会 議 次 第	1 開会 2 委嘱状交付 3 会長あいさつ 4 自己紹介 5 議事 (1) 国立障害者リハビリテーションセンター学院との連携協定について (2) 令和5年度・令和6年度の開催予定について (3) 令和4年度事業報告について (4) 令和5年度事業計画について 6 その他 7 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	・次第(裏面:委員名簿) ・国立障害者リハビリテーションセンター学院と入間市との連携に関する協定書(資料1)

	<ul style="list-style-type: none"> ・入間市児童発達支援センター運営協議会 会議開催予定について (資料2) ・令和4年度事業報告(資料3) ・令和5年度事業計画(資料4) ・令和4年度 第3回児童発達支援センター運営協議会 会議録 その他各委員より ・児童発達支援センターの役割 ・不登校の子どもたちのための学び場 NPO法人マナビダネ
事務局職員職氏名	<p>【こども支援部】次長 守屋俊久</p> <p>【こども支援課】課長 半田英樹、副主幹 青木三千代</p> <p>主査 雨間元良、主査 松本珠美</p> <p>指導主事 大館信浩、主事 奥 茉莉花</p>
関係課職員氏名	【学校教育課】 副参事 岡崎 公伸
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

1 下記の議題について事務局から説明し、審議を行った。

委員からの質疑については、事務局が回答した。

(1) 国立障害者リハビリテーションセンター学院との連携協定について

(2) 令和5年度・令和6年度の開催予定について

(3) 令和4年度事業報告について

(4) 令和5年度事業計画について

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
事務局	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)
越智会長	(開会) ※新委員は欠席のため委嘱状交付式は省略
全員	(あいさつ)
事務局	(自己紹介)
事務局	議事の進行は、越智会長が議長となり進行をお願いいたします。
越智会長	議長を務めさせていただきます。
	本日は11名の委員が出席していますので、入間市児童発達支援センター
	一運営協議会条例第6条第2項の規定により会議は成立しております。
	傍聴人がいましたら入室をお願いします。
事務局	本日の会議につきましては 傍聴希望者はありませんでした。
越智会長	会議録署名は出席者の中から名簿順となっておりますので、今回は並木
	委員をお願いします。
委員全員	(異議なし)
越智会長	これより議事に入ります。
	議題(1) 国立障害者リハビリテーションセンター学院との連携協定につい
	て事務局から説明を願います。
事務局	(資料1) 「国立障害者リハビリテーションセンター学院との連携協定につい
	て」説明。
	今年6月12日に、国立障害者リハビリテーションセンター学院と入間市と
	の連携協定に基づいた協議を行い、次の6点について確認しました。
	1、入間市側は、関係機関が多岐にわたるため、連携協定に基づく内容に
	ついては、すべて子ども支援部次長または子ども支援課課長兼児童発達支
	援センター所長が窓口となり、連携についての対応を行っていくこと。
	2、連携協定に基づく協議の場を毎年設けていくこと。
	3、CLMの展開について今後も共同して取り組んでいくこと。
	4、国立障害者リハビリテーションセンター学院の特定研修生について、入
	間市側で長期研修参加など対応可能な状況がある場合には、受け入れが可

発 言 者	発 言 内 容
越智会長 守屋次長 関委員	能であること。 5、多職種連携、短期特別研修について研修内容の検討段階から参加し、今後入間市の事例発表なども予定していくこと。 6、入間市の審議会や研修会へ国立障害者リハビリテーションセンター学院として委員、講師派遣などの協力をする準備があること。 ご意見等ありましたら、挙手をお願いします。 連携先の関委員から一言、お願いいたします。 この協定は令和2年の3月に結ばれたものです。令和2年4月から運営が始まっている。それに先立って、実習生の受け入れなどもしてもらっていたが入間市の方から、連携協定を結んで進めましょうというお話があり、この協定ができました。センター全体ではなく学院に限らせていただいています。学院は養成と研修を担当している部門で、私は児童指導員科で発達障害を専門にしています。他に言語聴覚学科、視覚障害学科、手話通訳学科、義肢装具学科、リハビリテーション体育学科等、様々な専門性があり、連携することは可能だと思います。
越智会長 事務局	議題（2）令和5年度・令和6年度の開催予定について事務局から説明を願います。 （資料2）「令和5年度・令和6年度の開催予定について」説明。
越智会長	現在の委員の任期は、令和6年6月末までです。例年運営協議会は年3回開催していますが、令和6年度については、令和7年度から令和11年度までの次期計画に関する意見交換を予定しているため、開催回数を5回としています。
越智会長	ご意見等ありましたら、挙手をお願いします。次期計画の策定に向けて、感じたことやご意見など書き留めておいていただけるといいと思います。
越智会長	議題（3）令和4年度事業報告と（4）令和5年度事業計画について事務局から説明を願います。

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>資料3「令和4年度事業報告」より主要部分のみ報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業について。基本相談の年間件数が令和3年度の412件に対し、令和4年度は873件と約2倍になりました。同様に、休日相談会についても、各回前年度より増加しています。周知方法等に大きな変化はないため、市民また関連施設等に当センターの認知が広がったことが大きな要因と考えています。 ・相談の年齢について、0歳から6歳が575件と一番多く相談の66%を占めています。また、相談内容についても、発達についての相談が451件と最多の52%。療育利用に関する相談と合わせると70%を超えています。実際、療育利用につながるケースが多くなっている中で、入間市の障害者基幹相談支援センターりぼんと、情報連携を行いながら業務を進め、相談者の負担感を軽減し、スムーズなサービスの利用につながっています。 ・専門相談について。心理師の相談が、専門相談の約74%を占めています。心理師の勤務日数が他の専門職に比べて多いですが、相談の内容また年齢からも心理師の需要が高いということが伺えます。 ・発達支援に関わる情報の管理・活用について。現在、システム導入に関わる各課と細かな確認調整を進めています。今後、運営協議会で報告させていただきます。 ・児童発達支援事業について。毎年、在籍児童数の増加とともに延べ利用者数も増加しております。 ・地域支援事業について。家族支援としての保護者交流会や親支援講座、同事業の地域支援として、関係機関連絡会を実施しました。 ・学校への活動としては、SSTの出前講座を、中高生向けの支援としては、夏休みのSST集中講座を実施しました。現在、CLMを中心に就学前の児童を広く支援していくと同時に、社会性・コミュニケーションに課題を抱えている小中高生への支援を展開し、こどもたちの自立や社会参加に向けた支援を進めています。これらの支援につきましては、集団生活に

発 言 者	発 言 内 容
越智会長 清水委員	<p>おける社会性の向上に当たるため、新型コロナウイルスを境に急速に増えている不登校の対策の一助としても期待をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休日施設開放は、表のとおり開催しました。各回、午後の利用が少ない結果となっています。その理由として、就学前のお子さんは特に午後、体を休めることが多いため、利用者の需要が少なかったことが考えられます。 ・ 普及啓発としては、児童発達支援センター主催の各講演などで、配信可能な内容について動画配信を行いました。また、4月には世界自閉症啓発デーのシンボルカラーである青色で西洋館をライトアップするブルーライトアップで、自閉症啓発を行いました。 <p>資料4「令和5年度の事業計画」について説明。</p> <p>今年度の事業計画は配布させていただいた資料4の通りとなっています。各事業に大きな変更はございませんが、休日施設開放については、これまでの利用の状況に合わせて午前みの開催としました。また、発達支援システムの導入及び、令和7年度からの新期事業計画作成に向けて、準備を進めていく予定です。</p> <p>以上、令和4年度事業報告と令和5年度事業計画について説明させていただきました。</p> <p>ご意見等ありましたら、挙手をお願いします。</p> <p>令和5年度の事業計画についてです。相談支援に「様々な部門の施策を横断した総合的な相談支援の実施」ということで、これをお願いしたいなと思います。やはり相談の窓口というのは、ただ相談で終わってはいけません。解決に向けて一緒に伴走する支援が必要だと考えます。病院によっては、検査が半年以上待ちというところもある。子どもたちは日々変化し、成長しています。一度しかない貴重な時期に長く待たされることのないよう、先ほどの方針のように進めていただければと思います。入間市の場合には児童発達支援センターという専門機関があるので、このセンターの相談</p>

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>を通して早期に医療機関を受診して診断を受け、療育を受けていったら、発達困難のデメリットを最小限に抑えることができるということが最も大事ではないかと思えます。</p> <p>様々な部門、施策を横断した総合的な相談支援の実施をより進めて欲しいというご意見を頂戴いたしました。報告の中でも挙げさせていただきました。我々の方の相談を通じて、療育につながるお子さんについては、障害者基幹相談支援センターりぼんとの情報連携のもと、相談者の負担を軽減し、スムーズなサービスの利用につながるよう務めております。また、各所に相談窓口がある状況ではありますが、基本相談員の方で地域保健課や教育の方と連携をとって、それぞれの相談がかみ合うように相談の中身について細かな情報共有を進めながら相談に対応しています。特に教育センターとは、相談員同士が現場レベルで情報のやり取りをする場を月一度、また週ごとに設けております。以上になります。</p>
越智会長	<p>ありがとうございました。他に何かご意見はありますか。</p>
宮澤委員	<p>進行が早く頭が追いつかないところもありました。グラフの区分の表示が分かりにくいので、もっと見やすく一目で分かるような工夫をされたらいいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>今後、より見やすいように工夫していきます。</p>
越智会長	<p>他に何かありますか。</p>
池田委員	<p>4年度の事業報告を見て、以前よりとても見やすく、分析をされたと思いました。初めて相談内容の内訳が示され、年齢層も0歳から6歳、小学生が多いということが明らかになりました。今までは相談日数等でしたが、件数で出てどういった相談が多いのかということオープンにされた。市役所のスタンスが変わりそうかな、と期待が持てます。もっと言えば、宮澤委員のおっしゃるとおり、市民がもっと見やすいものにし、パンフレットなどにデータを出していくと、相談に来た人たちが「うちの子だけが特別じゃないんだ」という安心感や、少し不安を取り除くようなことにもつながると思います。ぜひデータ分析をもっとオープンにして欲しい</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>い。社会福祉調査や社会調査の意義というのもますます重要になっていきます。ソーシャルワークの世界では、マクロだとかメゾとって、間接支援に使われていました。実は、現場でも分析して、どういう問題が増えているのか、どういった相談が増えているのか、ということを表に出すことによって、予防対策とか、意見も言いやすくなる。結果的には、相談件数が減っていく、もしくはもっと期待してこのセンターに通う方が来るなど、業務の改善につながっていくと思うので、このデータ分析は高く評価をしています。ぜひ、もっと市民に対してこういったものを出していただきたい。</p>
越智会長	<p>私も、表や一覧がパッと見やすいと思いました。他に意見があったらお願いします。</p>
桂川委員	<p>池田委員の話に続いてですが、私も相談内容など内訳を出していただいて、すごくよかったと拝見しておりました。令和4年度の事業報告の3の相談内容のところの集計の仕方をお伺いしたい。例えば発達の心配があって相談に来た。きっかけとして登園渋りみたいなものがあったとか、重複するようなケースがあると思います。今回の集計の場合には、1回の相談を1つに分類しているという意味でよろしいですか。</p>
事務局	<p>その通りです。一度の相談において、相談の類型が重複することはよく見られます。保護者の方のその時の主訴を第一にして、例えば不登校の相談でも、保護者の一番の主訴が発達についてであれば、まず発達についての類型で計上します。継続相談で主訴が変わったら類型を変えて計上し、相談ごとに合わせています。</p>
桂川委員	<p>一回の相談では、いずれか1つの類型で計上しているということですね。</p> <p>もう一点質問します。せっかくこの表を作っていただいたので、「その他」の部分が10%程度あります。86件は少なくない数です。あまり個別性が高い相談内容だと「自分のことを言っている」と思われる懸念がある等、外に出しにくいことも重々承知ですが、例えばどのようなものが分</p>

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>類されるのかをお伺いできると児童発達支援センターには「こんな技術もあるのか」というのが分かってよいと思います。</p> <p>その他の部分につきましては、我々の方でも扱いが難しいところです。以前あったような内容ですと、痴話喧嘩などご夫婦の問題等もありました。あとは、今回改めて整理したため、類型に当てはまらず、「その他」に分類したものがありません。</p>
桂川委員	<p>報告等で、そのような情報もお見せいただければと思います。</p>
越智会長	<p>ありがとうございました。次の方お願いします。</p>
清水委員	<p>令和5年度事業計画についてお伺いします。保育所等訪問支援という項目があります。私の考えとして、それを進めて、拡大していければと考えています。その理由は、令和4年度の報告では相談件数が昨年度に比べ倍になっていて、特に、0歳児から小学生の占める割合が9割、療育と発達については半分を占めています。最近、先生の勤務に関する話題がよく出ていますが、教員の中に特別な支援の知識を行き渡せる必要があると考えています。これに外部機関の連携支援が必要になってくるので、学校と児童発達支援センターとの連携をより深めていただければと思っています。</p>
越智会長	<p>ありがとうございました。私から一つ質問です。令和5年度事業計画の根本的なところを確認したいので、児童発達支援センターの組織図で、委託の部分と行政事業の部分の区分を説明してください。</p>
事務局	<p>令和5年度事業計画の組織図で、相談支援事業の中の専門相談と障害児相談支援の2つと、児童発達支援事業の全てを委託しています。地域支援事業の一部で、委託している専門相談の専門職と一緒に取り組んでいる部分はありますが、基本的には児童発達支援事業と専門相談、また障害児相談支援について委託をしております。</p>
越智会長	<p>入間市の児童発達支援センターは、すごく画期的だと思います。官と民と両方で運営しているので、どこからどこが行政で、どこが委託かというところが分かりづらいですが、相談支援は、基本的には行政の職員が基本相談をして専門相談の専門職へつなげていくという感じですね。</p>

発 言 者	発 言 内 容
並木委員	<p>入間市では全ての子どもが地域の中で自立に向けて成長できるよう支援していくこと、共に成長に寄り添う、切れ目のない支援を目指して環境づくりを進めていくこと、福祉と教育と子育ての一体化と発達支援の相談窓口の一体化、支援情報の一体化が開設当初から方向性として示されています。その意味においては相談支援事業と児童発達支援事業は利用実績も伸びてきている状況があります。</p> <p>児童発達支援センターという意味で今後大事になってくるのは、地域支援事業です。ここがセンターにしかない事業なので、ここについての充実を意見として提案していきたいと思います。現在相談支援を行う中で感じるのは、障害福祉領域の支援だけで状況を好転できるケースは少なくなってきたことや、我々が携われる領域はどんどん減ってきていることです。お子様に発達支援、療育的な支援が必要というところはもちろんですが、困窮世帯や家庭全体に課題がある世帯への対応が多くなっていて、お子さんに支援を提供しても、力が伸びていくということに繋がらない。むしろ、ご家族が悪い影響を与えていく、という状況もあります。そういった意味では、関係機関との連携は不可欠で、関委員にご用意いただいた、「児童発達支援センターの役割」という資料のトライアングルよりもスクエアがいいということ、家庭と教育、保健、福祉、ここが手を携え支援体制を構築していくということ、多職種連携においては、情報共有が非常にネックになってくるが、漏洩ではなく共有する、責任を持って貴重な情報を引き継ぐということ。支援に当たる上では当たり前のことですが、こういったところが実際の支援ではネックになってきます。また、連携はゴールではなく手段だということ。こういったものを進めていく必要があると思います。令和5年度の事業計画の中に、地域支援事業に係る様々な取り組みがありますが、これは連携を促進していきましようという取り組みだと思います。実効性のある支援体制を構築していくには仕組みや、体制を作るということが必要になってきます。この点について、現状どのように考えられていますか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
守屋こども支援部次長	<p>令和5年度は特に地域支援に注力しようという中で、新しく「福祉教育連携推進研修」「アセスメントスキル向上研修」「福祉教育連携推進体制研究事業」に取り組んでいく予定です。これは国立障害者リハビリテーションセンター学院や教育、保健と連携し、研究を進めながら体制を整備するものです。「福祉教育連携推進研修」「福祉教育連携推進体制研究事業」福祉、子育て、健康推進、教育の4部門の連携をするためにどういうプラットフォーム・管理体制を作っていくか、どういう研修、人材育成をしていくかを研究し、仕組みとして残していきたいと考えています。「アセスメントスキル向上研修」3月に国立障害者リハビリテーションセンター病院の院長を退官された。西牧医師に、年間5回児童発達センターの医療相談や職員のアセスメントスキルを上げるための事例検討の場、実習的に市の職員に対して個別の指導をいただき、現場の力も上げていく取り組みです。また、この4部門に関しては、現場の職員だけの連携ではなく、管理職が連携する意義を理解していなければ連携が進まないため、管理職に対する研修をして、連携を役所の体制として推進していくための意識啓発や取り組みを進めていきます。</p>
並木委員	<p>プラットフォーム作り、体制をつくっていただければありがたいと思います。今後とも一緒に取り組ませていただきたいと思います。</p>
越智会長	<p>ありがとうございました。他に、いかがでしょうか。</p>
関委員	<p>相談支援が倍増になったということですが、職員数は増えておらず、逆に1人減として理解しています。物理的に対応可能な件数がある程度推測できると思います。児童発達支援センターの事業は相談支援だけではないと思いますので、そのあたりの状況をまず教えていただきたい。また、児童発達支援センターの中核機能ということで、事業所を管轄しているのは地域支援のところになると思いますが、保育所を管轄しているところはどこかを教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>職員数については、兼任解除ということで、実質一名減少しています。相談件数については、増加しています。ただ、ご質問いただいた今現在の</p>

発 言 者	発 言 内 容
関委員	<p>相談員一人当たりの対応可能な件数については、まだ整理、把握ができておりませんので、今後の課題とさせていただきます。</p> <p>保育所の管轄ということですが、保育所幼稚園等を管轄しているのは、保育幼稚園課になります。</p>
事務局	<p>私の質問は、地域支援事業の中に保育所が入っていないので、ういずの中で保育所を担当するところを確認したかったのです。</p>
関委員	<p>地域支援事業の中で地域の支援をしていくということで支援機関、関係団体との連携協力。また、地域の支援機関のところに保育所や小学校等の機関への支援をしていきますという、事業計画の地域支援②施設支援という形で位置づけております。現状業務の中で、施設側、幼稚園、保育所、そういった施設の方からのご相談は相談支援の中でも受け、助言等させていただいているというのも業務の中ではございます。</p>
事務局	<p>連携をうたっているので表に入れるべきだと思う。それからポンチ絵の中はこども支援部の中の話ですけど、ういずには保健師もいるし、指導主事もいる。すでにトライアングルを超えていることをやっている。そう考えると、ここが設置されたときの意図として、18歳まで見るということにされているわけですから、これまでやってきているところについても、今後の話になるかと思いますが、そこをちゃんと踏まえて話をしていくべきじゃないか。当初の意図をきちんと汲んで機能しているのか、相談件数だけ上がればいいのかと考えていません。</p>
新井委員	<p>ご意見ありがとうございました。やってきたことへの見直しとそれを踏まえて、今後の事業計画の見直しを進めていくことが我々の立ち位置と認識させていただいております。</p>
事務局	<p>4年度の事業報告の中の地域支援事業の内容はとてもいいことをやっていると思います。家族支援、保護者交流会、親支援、就学を考える会、きょうだい児支援など。これについて評価し、その結果を踏まえて5年度の事業計画を立てていると思います。参加人数などは書かれてあるものもありますが、実際に開催してみてもの評価や反応など細かい事業の評価を私た</p>

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>ちが知ることはできますか。</p> <p>配布した資料に記載の方がなく申し訳ございません。各事業については、課内の報告書に記載していますが、皆さんの方に見える形での提示というのはこれまで実施はしておりません。</p>
宮澤委員	<p>4年度の実績に対する分析から、5年度の計画を作成しているという部分が不明瞭なので、それを示してくださいと新井委員はおっしゃっていると思う。5年度の計画を作成する元になった資料を提示して欲しいと思います。</p>
事務局	<p>ご指摘ありがとうございます。今後我々の方でもよく検討をさせていただきたいと思います。</p> <p>5年度の事業につきまして、4年度の事業の評価を踏まえて変更したのは、先ほど報告させていただいた、休日施設開放です。午後の利用が少なかったため、午前のみに変更しました。その他の事業につきましては、良い評価をいただいておりますので、そのまま大きな変更なく5年度の事業計画とさせていただいております。この点について、情報の開示が不足していましたので、情報の提示方法について検討させていただきたいと思います。</p>
越智会長	<p>ご意見ありがとうございました。</p> <p>休日施設開放には、親の会からもボランティアとして参加していました。そこでお母さん同士が交流され、自分達で会を立ち上げたということはありません。それは、施設を開放し、そういう場を提供してくださったので、お母さん同士のつながりができてきていると感じました。また、きょうだい児支援は、単独の行事・事業とするのは中々難しいと思います。児童センター「ありんこ」の行事で、年に2～3回本人だけでなく、家族全員で参加できるような場もあります。そういう情報をもらって、紹介するみたいな形をとることも良いと思いました。</p>
神山委員	<p>実際に「ありんこ」を紹介して、家族全員で参加し、その後「ありんこ」のメンバーに加わっていただいた例もあります。今いろんなところで</p>

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>そういう活動もあるけど、保護者が情報を求めているけど伝わらない、活動しているけれども参加者が集まらないという状況があります。ぜひ多くの方に活動について知っていただきたいと思いました。</p> <p>休日施設開放で越智さんたちがボランティアをされて、親同士の交流ができ、サークルができました。すごくいい働きかけをしてくださったと思います。5年度に向けてはそういう人たちが休日施設開放に関わりを持っていくのでしょうか。</p> <p>休日施設開放で、保護者同士が自助グループのような形で新しく活動されているということについて、とても嬉しく思います。そういった団体の方たちと今後どのようなことをしていけるかということについては、今後の検討とさせていただきたいと思います。</p>
越智会長	<p>休日施設開放は令和5年度も設定しています。若いお母さん方が出会えたのは、そういう場があったからだと思いますので、ぜひ続けていただければと思います。</p> <p>「ありんこ」は児童センターアイクスの中にある手作りのボランティアの団体で、布絵本等を手作りしていて、新型コロナウイルス前までは貸し出しもしていました。登録が必要ですが、年に数回、餃子作りや、クッキー作りをする等、障害のある本人だけでなく、家族全員で行けるので、きょうだいも一緒に行けます。ぜひそちらの紹介などもしていけるといいと思います。今日、資料は間に合わなかったもので、神山先生の方でお持ちであれば、次回の会議の際にお配りいただければと思います。</p>
並木委員	<p>先ほどいろいろ要望を述べました。要望として思っています。同時に今の人員体制でそれができるのかと言う疑問もあります。ういずの実際の業務を見ているので無理を言っていると承知しています。今、放課後等デイサービスというのを多くの方が利用されています。学童保育室の利用からそちらに流れている方もいます。実際にそのような支援も無限ではありません。受け入れは地域の中で難しくなっていて、希望される方がいても、利用できない可能性も生じていると思います。お金の話をすると、放</p>

発 言 者	発 言 内 容
清水委員	<p>課後デイサービスを利用するとお金が事業者に払われます。すごいお金です。本当はそこに行かなくてもいいかなというお子さんもいますが、なかなかそれに代わるような場所がないため、行っているお子さんもいます。ということは、もう少し前から何かの支援があれば、その子どもたちは放課後等デイサービスを利用せずに過ごせる可能性もあると思っています。それは、先行投資という意味でも必要なことであると個人的には思っていて、そこに至る前の予防的対応、そこに至る前の支援をもっと充実させていけば、放課後デイサービスの様なサービスを利用しなくても、地域で暮らせる可能性もあると思いますので、ういずの人員体制の充実ということも要望として大切だと思います。</p> <p>ペアレント・トレーニングを開催されるということで、親御さんにとっては心強い支援になると思います。参考にある記事を紹介します。小学生の男の子。集団行動が苦手で、友達とのトラブルが度々、学校生活に困難がある。新型コロナウイルスの影響で、自宅で過ごすことが多く、ゲームに熱中して学校の準備、例えば宿題等はしない、お母さんが何回言っても聞いてくれない。ということで、怒りが抑えられないまま感情をぶつけるということも度々起こったそうです。負のスパイラルに親御さんも陥ってしまった。それで親御さんも変わらなければいけないということで、ペアトレを通しお母さんの接し方が変わり、子どもも少しずつ変わり、親子とも自尊心が改善される可能性が徐々に高まったと言われています。</p>
越智会長	<p>平岡委員。初めて参加されたので。何か一言ご意見をいただければと思います。</p>
平岡委員	<p>並木委員からもお話があった件ですが。本校は、多くの生徒たちが最終的に利用する高等部です。毎日多くの放課後等デイサービスの方が子どもたちの送迎にきています。その光景を見ていると、本当にこの子は放課後等デイサービスが必要なのだろうか。むしろ、経験してほしいことは他にたくさんある。というふうに感じています。ただ、そこには先ほど並木委員のおっしゃっていた先行投資、経験値を増やしていった中で、本当に彼</p>

発 言 者	発 言 内 容
越智会長	<p>らがやりたい仕事を探すとかができるといいのではないかと考えています。これは入間市だけではなくて本校学区がある5市全体に言えることです。もし可能であれば、ういずという素敵な場があるのは入間市の特色だと思っておりますので、ぜひ他市に先駆けてそういったことを課題にさせていただきたいと思いました。もう一点、親支援講座というところで昨年本校に保護者方に来ていただきました。やはり、子どもたちがどう育っていくかというのを実際に見ることで、保護者方自身の考えるきっかけになる、いい機会をいただいていると思えます。その見学を機会に個別にご相談いただいたり、あとは学校見学に来ていただいたりすることも多くあります。ぜひこういった機会をどんどん増やしていただければと思います。</p> <p>予定された議事は以上になります。全ての議事が終了しましたので、座長をおろせていただきます。委員の皆様、ご協力。ご意見ありがとうございました。</p>
事務局	<p>越智会長には、議長を務めていただきありがとうございました。また、各委員から何か確認報告がございますか。</p>
池田委員	<p>私は児童福祉審議会から来ております。この会議には他に児童発達支援センター運営協議会委員が3名出ております。今度は子ども若者未来応援プランの次の中期計画です。これは名前を変えて入間市こども計画で作りたいと考えています。今日はいずれの事業報告と事業計画を拝見し、入間市の子ども真ん中社会というものをどういう風に作っていったらいいのか、大変勉強になる御示唆をいただきました。例えば中高生の相談件数が非常に低い。やっぱり中高生が相談に来やすい体制を作っていないといけないとも思いました。国立障害者リハビリテーションセンターでは身出しなみ支援等を行っています。中高生で髪の毛がボサボサでいたり、服がうまく整えられなかったり等。そこをきっかけにコミュニケーションで不器用な関係を生じてしまい、自己肯定感が少なくなってしまう。LGBTQとかの相談がどこに来ているのか、そういったまだ見えないものも考えなくてはいけないと思えます。今度、市長と教育長に、会長、副会長で</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ご挨拶に行つて、首長としてどう考えているのかというのをしっかり聞いてきたいと思つます。そういった意味では、少子化というのは黒船到来というぐらいの衝撃で子どもの数が減少していくわけです。これを市長、教育長がどのように考えているのか聞いてきますので、もし、皆様方ご意見があったら意見をいただければと思つます。インクルーシブルな社会において子どもたちこそが世の中の光になって活躍しないといけない。そのために児童発達支援センターが動いて、ここを機に勇気を与えて子どもたちが活躍する社会を作つていかないと、この黒船到来の少子化は超えていけないと思つます。</p>
関委員	<p>資料を配布させていただいたので、ご紹介をさせていただきたいと思つます。地域支援システムの簡易構造評価キューサックスを作成しました。この資料は、7月6日のこども未来室検討委員会会議、その翌日の、市内の教頭やこどもの支援に係わる関係者が参加された会議において記入していただいた時のワークシートをもとに作成したものです。横軸が年齢になり、保育園、小学校、中学校等の施設や支援を各レベルに分類し、視覚化したもので、これを通じて多職種が集まり、入間市の強みを皆さんで確認しました。課題は入間市に医療機関がない、強みは、入間市は相談できる人や資源がたくさんあるという話が出てきたので、参考にご覧いただければと思つて資料提示させていただきました。</p>
事務局	<p>次回、第2回は11月10日の金曜日、午後1時半から入間市役所C棟5階501会議室で行う予定です。出席をお願いします。</p>
並木委員	<p>長時間にわたり大変お疲れさまでした。こどもたちは、非常に多くの方々と関わりを持ちながら成長していくと常々感じています。その中には学校の先生も、いろいろな専門職、支援機関の方々と関わるこどもたち、また、越智委員や神山委員のような地域の方と関わりを持ちながら成長していくお子さんもいると思つます。そういった意味では、教育や保健、福祉等、領域はいろいろありますが、みんなで手を取り合つて、仲良くこどもたちを支えていくチームをどうしたらいいかと日々考えています。この</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>会議の場もそれを考える機会になるかと思えます。暑さが大変厳しい日が続きますが、11月10日にまた皆さんと会えることを楽しみにしています。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>

議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 5年 11月 6日

議 長 の 署 名

越智 恵子

議長が指名した者の署名

並木 範一

